

花と緑の銀行だより

160号 2006.7



ツリフネソウ/有峰

目次	・活動事例	2	・草花の害虫とその防除法.....	5
	・市町村コーナー	3	・写真コーナー	6
	・緑づくりコーナー	4	・情報コーナー	7
	・この人あり	5		

花街道を通じて地域の活性化へ

南砺市桐木花と緑の活動推進協議会 会長 水木 猛

はじめに

私達の地域は県南西部の南砺市内北西に位置し、小矢部川右岸に沿って1.5キロに及び47ヘクタールの水田と45戸の世帯があります。のどかな純農村地帯で地区の中心には市道が通り、その両側には、色鮮やかに自然と緑に囲まれながら色とりどりの花を咲かせて道行く人の心を癒している花街道が、延べ300メートルに及んでいます。

又この地区では今年から、農事組合法人・桐木営農組合を立ち上げ、集落全体が活気に満ちています。

活動推進協議会の誕生

数年前からグリーンキーパーによる町道の路肩に花苗の定植がなされていた事もあり、2000年国体の年、自治会長が自治会に図り、選手を迎えるための民泊家庭前の町道両サイドに花街道を自治会総員で作成し、灌水は全戸で当番を決めて管理し、選手を歓迎しました。又、各家庭でプランターに花苗を植え育ててもらい、国体期間中アスファルト道路（県道）を飾り、選手や多くの方々に喜ばれました。プランター定植時には講師を招いて講習会を開催し、自治会員に花に関心を持ってもらう良い機会としました。

町コンクール「優秀賞」県コンクール「奨励賞」を貰いました。

活動の内容

13年度の活動のポイント

平成12年度の事業を存続しようと、自治会有志とグリーンキーパーが協議し「桐木花と緑の活動推進協議会」が発足し活動が始まりました。男性会員14名、女性会員14名でスタートしました。

- ・自治会員からハウスを譲り受け、営農組合格納庫裏に建てました。
- ・播種しプラグ苗作りをして苗を育てました。
- ・街道整備のため小型コンボで花床を掘下げ、石を除去しました。
- ・花苗を定植し、倒伏防止のため支柱などを立てました。灌水はテラに500リットルのタンクを積み男性会員で行ないました。
- ・開花後の花を刈り取り、おから、豚ふん、籾殻を混ぜ、堆肥を来年用に積み準備しました。



- ・県コンクール審査発表後、県内の優秀作品の見学会を企画し、来年の参考にするため会員と地区民との親睦を図りました。

14年度の活動のポイント

- ・各家庭に花苗の注文を取り花苗、堆肥を安く販売し「花いっぱい運動」を根づかせました。
- ・公民館横に児童クラブの花壇枠を枕木で設置し、親と児童で草むしり、花壇作りを体験し親子で花について学んでもらいました。



15年度の活動のポイント

- ・街道には花苗定植1ヶ月前に、今年度から豚ふんを購入し、すき込み、土壌づくりに努めました。
- ・支柱と飾り付けの材料を近くの山林から用意しました。
- ・本年度は新たに土壌作り後、除草剤を散布しました。

16年度～17年度にかけての活動ポイント

- ・播種と芽だしの一部を園芸家に依頼し、プラグ苗、花苗の管理育成に努めました。
- ・定植1ヶ月前から豚ふんのすき込みを行いました。
- ・前年の宿根草や木の枝等を生かして花苗を定植し、新たな試みをしました。

その試みは野菜畑で表現し、棚に瓢箪を絡ませるなど工夫を凝らしました。

- ・保水と除草のためバーク堆肥や、麦わらを敷きました。
- ・17年度は町コンクール「最優秀賞」県コンクール「最優秀賞」に輝きました。

今後の問題点と課題

- ・枕木で植栽幅を広げましたが、まだまだ狭く定植できる花数は限られてしまう。
- ・開花時期には道幅を狭め、交通の障害となり美的には良いが安全性に問題がある。
- ・冬期間、除雪で路肩の土や宿根草が掘り起こされるので、植付け場所を考慮する。
- ・会員数の減少で会員の負担が大きくなっているため、住民参加に努め住民に根づく花作り活動を行なう。
- ・街道の構成上、花苗等の経費がかさむので宿根草、廃材を多く活用しながら経費の節減に努めると共に、安らぎを感じる花街道にしたい。

魚津市の「心豊かな街づくり」を目指して

魚津市みどり保全課 副主幹 大島かをり

自然の宝庫・魚津

立山連峰から雪解けとともにあふれ出る豊かな清流が早月川・片貝川の2大河川から富山湾に流れ込み、その扇状地である魚津市には他に類を見ない自然があふれております。

片貝川上流の県定公園（平成17年8月指定）には、推定樹齢900年～1,000年と伝えられている洞杉が群生しております。洞杉とは、杉が急斜面で風雪に耐える為に大きな岩を抱え込むような姿勢で育っていった老木で、その容姿も異様で1本の木から曲がりくねった幹が何本も株立ちして見る者を圧巻しております。

また、市のキャッチフレーズ「屋気楼の見える街魚津」のとおり海岸線では春から初夏にかけては「春型」、晩秋から冬にかけては「冬型」の屋気楼を見ることができます。そして近くの博物館には太古の巨根「埋没林」が君臨しております。



（片貝川上流の洞杉）

魚津市の緑花事業

このように自然があふれる魚津市では、4月にはメインストリートで市民に緑花木の苗木を無償で配布しております。この事業は30年ほど前から続けられており、市民の皆さんはこの行事を待ち焦がれており、当日は長い行列が出来上がります。

そして各家庭で大事に育て上げられ立派な花木となって魚津市の春に彩を添えております。



（緑花木の無償配布）

また、夏には市の花「かのこゆり」で、「かのこゆりロード」が出現します。

JR魚津駅の幹線道路の中央分離帯にフラワーポットが設置され、一夜のうちに夢のようなフラワーロードが出現し、魚津を降りた観光客を出迎えるのです。



（かのこゆりロード）

これからの魚津市の緑化事業

魚津市では、豊かな自然を後世に残すために、これからも地区頭取の方を柱に市民と行政が一体となってさらなる緑化の普及・啓蒙活動を推進し、自然の大切さや命の尊さを実感できる「心豊かな街づくり」を目指して努力してまいりたいと思います。

屋敷林におけるスギの健康度診断（１）

富山県林業技術センター林業試験場

中山間地域資源課長 西村 正史

屋敷林は本県の代表的な景観の一つであり、緑の資源としても貴重な存在になっています。特に、スギは屋敷林内で中心的な地位を占めており、スギを守ることは屋敷林を守ることであります。今回は、衰弱の原因が地下部にある被害の特徴と対策を紹介します。

１．踏圧害

1-1．被害の特徴

スギの根元付近が、人や車等で長年踏み固められると土壌は次第に堅くなっていきます。その結果、空気や水の通りが悪くなり、根が枯死します。地上部では、葉が減少し、枝枯れが目立つようになります（写真）。衰弱がさらに進行すると、スギは枯損する危険が非常に高まります。

1-2．対策

スギの樹冠付近（根が張っている範囲）を少なくとも30cmの深さまで耕耘し、堆肥を入れてよく混和することが大切です。その際、根元は避けてください。堆肥の量は100m²当たり1～1.5kgを目安にしてください。

なお、加湿障害を伴う場合もあります。その時は、暗きよ排水にし、水が停留しないようにすることが大切です。

２．根の切断害

2-1．被害の特徴

屋敷林内で家の立て替えや庭の工事の際に太い根等を傷めると、スギが衰弱します。傷口から腐朽菌が侵入すれば根が腐朽し、衰弱傾向はさらに加速されます。被害が進行すれば、枯損あるいは倒木する場合があります。

2-2．対策

屋敷林内のスギの近くで工事を行う場合には、根を痛めないように気をつけてください。重機等が入ると土壌を堅くする場合があるので、注意してください。

３．盛土による被害

3-1．被害の特徴

屋敷林内は、盛土されたスギがよく見られます。

このような場合、数年経過するとスギが衰弱し始め、踏圧害と同じ症状になって行きます。

3-2．対策

スギ等への盛土は避けることが大切です。盛土を行った場合には取り除きましょう。

また、屋敷林内で家の立替えや庭の工事等で新たな土が搬入されることがあります。その際、スギ等の植物の生育に適さない土壌の搬入は避けるようにしてください。その際、スギへの盛土はしないでください。

盛土のため、スギが衰弱しておれば、１の踏圧害の対策を行ってください。



写真 踏圧害によって衰弱したスギ

= 花いっぱい町に =

朝日支店泊3区頭取 岡崎 勇さん



岡崎さんは、あさひ総合病院の新築にもなつて、今まで病院前で咲き誇っていた山茶花の木が廃棄されることを知り、約26年前頃に植えた山茶花の木を少しでも助けたいとの思いで、

いろいろと奔走されました。幸い泊駅構内の花壇の後ろに一部を移植することになり、地区の頭取・グリーンキーパーに話しかけ、今年4月末頃にみなさんの協力で植え替える運びとなりました。

実際良い状態で運ばれてこなかったのと、植える場所が瓦礫のところを何とか整備した所でしたので、1本が枯れてしまい6本がやっと根付いたようでほっとしています。

山茶花の手前の花壇にはチューリップの代わりにベゴニア、インパチェンス、ニチニチソウ、コキア

苗などに植え替えられています。

花壇作りには構図、管理などを岡崎さんと皆さんで話し合い楽しく、作業に取り組んでいます。岡崎さんは、町・駅を花などで美しく飾ることで人々の心を和ませればとの思いの人です。

毎年11月頃になりますと、さみさと小学校正面の松や植木の雪つり、雪囲いをする準備に縄の取り扱い方などを経験者を中心に本番に備えての講習、また共同で花の世話をすることのある佐味野園芸というグループとの連絡役をするなど世話好きな人です。

昭和50年に泊3区の頭取に就任して以来、長年にわたり頭取を経験され、現在は人柄・人望で泊3地区の頭取・グリーンキーパー12名のまとめ役として精一杯活動をしておられます。

(泊1区頭取 吉本利夫記)

〈技術情報〉

草花の害虫とその防除法 (9) ハムシ

富山県立大学非常勤講師 成瀬 博行



ハムシは、カブトムシやコガネムシと同じ甲虫の仲間、我が国では、500種ほどが記録されている大きなグループです。体はとても小さく、ほとんどの種類で成虫の体長が数mm前後しかありません。

体の色は、紺色や茶色の種類が多いようですが、中にはカラフルな斑紋があったり、虹色に輝くものもいて、たいへんかわいらしい印象を与えます。成虫の餌は、植物の葉や花びらなどですが、幼虫は葉を食べる種類の他、地中で根などを加害するものもいます。

ハムシの仲間には重要な害虫が多く、イネドロオイムシ(イネクビボソハムシ)は、幼虫が糞を体の上に寄せながら田植え後間もないイネの葉をなめるように食べます。現在は防除が徹底され、ほとんど被害はありませんが、かつては主に山間地で大発生し、真っ白になった田んぼがよく見られました。また、フタスジヒメハムシは成虫がダイズの葉や茎を食害するだけでなく、莢を加害して黒斑粒を発生さ

せ、大豆の品質低下の原因になります。また幼虫は、地中で根粒菌を食べるため、生育や収量が低下する被害も近年明らかになり、現在最も被害の大きいダイズ害虫の一つです。

草花の場合でも、いくつかの種類のハムシが害虫として知られています。たとえばヨモギハムシ(写真)は、雑草地などでごく普通に見かけるハムシですが、キクの葉や花を食害して鑑賞価値を落とすといわれています。ウリハムシはウリバエとも呼ばれ、キュウリやスイカなどウリ類の重要害虫ですが、アスターなどの葉を食害します。また、近縁のクロウリハムシはカーネーションやキキョウの新葉を好んで食べます。

前に述べたように、ハムシは体が小さいため、よほどの多発生でなければ、草花の生育に悪影響を与えることはないと思われます。しかし、葉や花を食害されると、わずかであっても鑑賞価値に影響します。日頃から観察し、発生を認めたら取り除くようにして下さい。薬剤による防除については、ごく一

第21回

頼成の森花しょうぶ祭り

平成 18 年 6 月 16 日から 25 日まで開催



花しょうぶを觀賞する入園者

今年は、開花がやや遅れ気味でしたが、砺波市の「頼成の森」水生植物園（花しょうぶ園）の花しょうぶ祭りにはたくさんの来園者で賑わいました。

花しょうぶ園には 6 ha の園内に 600 品種 70 万株の花しょうぶをはじめ、カキツバタ、スイレン、ミズバショウ等が植栽されています。

来園者は、見事な花しょうぶを心ゆくまで堪能されていました。

花しょうぶ 品種の紹介



乙女峠



若桜



花月夜



金冠



蛇の目笠



連休白



初紫



玉手箱

多数のご来園ありがとうございました。

花と緑のニュース

頭取・グリーンキーパーステップアップ研修で花壇づくり実習 (中央植物園内の芝生広場に6基)

今年度から頭取・グリーンキーパーを対象としたステップアップ研修で、中央植物園内の芝生広場の一角に6基の花壇が設置され花壇づくりの実技講習が行われました。

この頭取・グリーンキーパーステップアップ研修は、県内各支店を通じて応募のあった約30名の研修生が、年間10回、花壇づくりの基礎知識から、地域の環境保全や緑化に関する知識や園芸セラピーなど県内外の優れた講師により、花と緑に関するより高度で総合的な知識技術を取得することをねらいとした研修です。

去る5月31日(水)中央植物園芝生広場に設置された6基の花壇に花苗の植え付けが行われました。研修生は、6班に分かれ事前に班毎に検討した花の種類や品種、花色などの花壇のデザインにもとづいて、植え込みを行い、モデル花壇として見応えのあるものとなっています。是非ご来園になり見学頂ければ、花壇づくりの参考になるものと思います。



花壇植え込み風景

平成18年度フラワーグリーンバス現地見学コース

今年度の各種研修で見学した花壇は次のとおりです。大変参考になりました。熱心に説明頂きましてありがとうございました。

研修名	期日	見学花壇名
ステップアップ研修	6月21日	富山市救護施設八尾園ふれあい花壇、射水市小杉花づくり同好会、富山市四方ガーデニング愛好会
フラワーグリーンバス研修	7月3日～4日	県東部コース：黒部市前沢カンナロード委員会、富山市救護施設八尾園ふれあい花壇、富山市四方ガーデニング愛好会 県西部コース：高岡市葦野町自治会花の愛好会、砺波市東野尻花と緑の推進協議会、南砺市桐木花と緑の推進協議会、南砺市園芸植物園
頭取・グリーンキーパー 新任者研修	7月5日	砺波市高波花と緑の推進協議会、射水市小杉花づくり同好会、富山市船峠ふれあい花壇、富山市大沢野花の道運動公園花壇

表紙・裏表紙写真提供：成瀬博行（県立大学非常勤講師）

表「ツリフネソウ」：山麓の湿地に生える。ハウセンカの仲間。

裏「コバイケソウ」：亜高山の湿性草原に生えるユリ科の大型草本。



コバイケソウ/白木峰

花と緑の銀行だより 160号

発行日 平成18年7月

編集発行 財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org>

富山県花総合センター

〒939-1383 富山県砺波市高道46-3

TEL 0763-32-1187

FAX 0763-32-1219

ホームページアドレス [http://WWW.pref.toyama.jp/](http://WWW.pref.toyama.jp/branches/1692/1692.htm)

[branches/1692/1692.htm](http://WWW.pref.toyama.jp/branches/1692/1692.htm)

県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>

